

その場でそのとき

山口県 川上中学校 3年 川辺 葉音

その子は、ネットインした球に追いつこうとして卓球台の角に親指を強く打ちつけた。「痛そうやな」。見ている私の顔までゆがんだ。2階席から見ていた私にも、指に血がにじんでいるのが見えた。さすがに痛かったと見えて、その子はベンチの先生に傷を見せたが、試合はそのまま続行された。競っていた試合を、その子は落としてしまった。同じ選手として気の毒に思った。

卓球では敗者審判といって、試合に負けた選手が次の試合の審判をする。たまたま私の試合の審判にその子が入った。前の試合のままになっている得点板をゼロに戻しているその子は、利き手の右手をかばって、左手だけを使っていた。

「ばんそうこう、もらいましたか？」

「もらってないです。」

「私、いっぱい持っているんで使いますか？」

「え、いいんですか？」

「はい、どうぞ（にっこりと）。」

「ありがとうございます！」

遠慮しないでもらってくれた。本当は試合中に渡したかったのだけれど。“できたて”の傷は、ものに当たるとヒリヒリ痛むものだ。ばんそうこうを貼ったその子は、まごつくことなく得点板をめくり、審判をこなしてくれた。その後、その子のけがを気にすることなく、私は試合に集中できた。

「ごみ、もらいますよ。」

「ありがとうございます。そんなことまですみません。」

と言いながら、ユニフォームの小さいポケットに無理やり入れていたばんそうこうのごみを出して、笑顔でお辞儀をしてくれた。審判だけのためにアリーナにいるその子は、カバンを持っていなかったのだ。そのあとも、会場で会うたびにその子はにっこり笑顔でお礼を言ってくれた。

私の試合用リュックの中は、もしものために予備のピン球多数のほか、ばんそうこう10枚くらい、ティッシュ、マスク、エアーサロンパスなど入って、いつもぎゅうぎゅうパンパン。今日は役に立った。

試合中は何かを取りに行きたくても時間がないとか、その場を離れてはいけないとか、なにかと制約がある。その場でそのとき必要なものがないと、本当に困るものだ。実は、2階から下りるとき、その子の近くに行けたら渡そうと、ばんそうこうをリュックから出してポケットにしのばせておいたのだ。

なにかをあげる親切に、その金額は関係ない。そのとき必要なもの・ことを、そのときしてあげることが肝心。知らない人に声をかけるのは勇気がいるけれども、そのタイミングを逃さない人になりたい。名前も知らないその子の笑顔は、次の勇気を私に与えてくれた。